



監修：
ICT CONNECT 21

より良い教育を目指して EdTech業界一体で取り組む

後藤 匠

(株式会社Libry代表取締役CEO／ICT CONNECT 21
EdTech推進 S W G サブリーダー)

① ICT化で生まれる「負」を解消したい

昨年に表示された「GIGAスクール構想の実現」、そして依然として猛威を振るっている新型コロナウイルスをきっかけにした「GIGAスクール構想の加速による学びの保障」によって、教育のICT化が急速に進められています。ネットワークインフラの構築、児童・生徒用端末の整備と並行して、多くの学校・自治体で検討していただいているのが、EdTech（教育×ICT）の導入です。

「EdTech」の一口に言っても、AIドリル、協働学習ツール、

プログラミング教材、学習動画など、その機能はさまざまです。すでに「一人一台環境」が整備されている学校では、複数のEdTechを導入し、シーンに合わせて活用されています。例えば、教科学習の演習ではAIドリルを、探究学習では協働学習ツールを、プログラミングの授業ではプログラミング教材を、補習には学習動画を、といった具合です。

EdTechは、あくまでも教育の目的を達成するための道具です。多くの場合、その目的を達成するために「複数の道具」を組み合わせる必要があるはずです。しかし、ここで業界としての「負」が生まれます。特に顕著にあらわれるのは、進級の時期です。

複数のEdTechを活用していると、各社から先生方へ「名簿情報、クラス情報を教えてください」と依頼があったり、先生方が各サービス上で、新規のクラスをつくりたりしなくてはなりません。EdTechには、先生方の業務負担軽減を目的としている側面もあるのに、このような状態では先生をかえって疲弊させてしまい本末転倒です。GIGAスクールによるICT環境整備に合わせて、先生方の負担軽減のためにも、EdTech各社が連携し、「名簿情報を引き継ぐフォーマットの標準化」などの工夫が必要となります。

② 教育の目的達成のために

他にも、各EdTechで蓄積されるスタディ・ログ（学習履歴

等)を連携することで、ひとつのサービスだけでは提供できなかった価値を教育現場に届けられるはずです。例えば、ある生徒が転校する時に、前の学校のスタディ・ログを持ち運ぶことができれば、先生はこの生徒が何をわかっているのかということとを把握でき、転入後すぐから個別最適な指導が可能になります。他にも、A Iドリルから導き出された「苦手」の情報に基づいて、他のEdTechの、その学習内容に基づいた学習動画に連携できるでしょう。

今後は、学校を中心に「学び」を捉えるのではなく、学習者を中心に「学び」を捉え、スタディ・ログを蓄積・連携することと、真に個別最適な学習環境を提供していくべきだと考えています。

EdTech推進SWGの活動

このように企業の連携によって実現できる未来に共感するEdTech企業が集まっているのが、EdTech推進SWGです。「競争」しつつも、教育業界を健全に発展させようとする同志として、「共創」に取り組んでいます。

ICT CONNECT 21設立当初より「EdTechを通じた、デジタルテクノロジーを活用した教育のイノベーションを実現する」ことを目的に「EdTechイノベーションSWG」として取り組んできたことを引き継ぎ、2019年度、そして20年度と活動領域を拡大し、現在は次の3点を中心に活動が続けてい

ます。

- (1) 研究者・実践者およびEdTech関連企業・団体との対話の場の構築
- (2) 政策立案・政策提言への協力
- (3) EdTechの認知拡大

僕たちは、EdTech業界の一員としてICT化で生まれる「負」の解消とより良い教育の提供を目指し、議論を重ねています。

企業の垣根を越え業界全体で明るい未来を創ってまいります。

株式会社Libry 代表取締役CEO 後藤匠
教育をより良くしたいという思いをもつ同志のみなさんと一緒に、企業の垣根を越えて素敵な未来を創っていきます！

株式会社COMPASS ファウンダー 神野元基
学習ログの連携により子どもたちが自由に学習環境を選択できるようになります。真の個別最適化に向けて業界全体で取り組んでいきます。

ライフイズテック株式会社 取締役 横井康智
EdTechによって中高生の可能性はもっともっと広がります。プログラミングや探究など新しい学びを学校で実現するお手伝いをしていきます！

株式会社すらネット マーケティンググループ サブマネージャ 久保田航
あるべき形の実現によって学習者一人ひとりの最大利益を追求していきたいと思っています。

株式会社Z会 経営戦略部 事業企画課 課長 一般社団法人IOSコンソーシアム 代表 野本竜典
高校生からICTによる教育の拡張を目指して20年目。学習者目線のICTとデータの活用を推進すべく皆さんと協働していきたいと思っています。

特に20年5月からは、SWG内の一部メンバーが分科的な活動を行っており、どのように連携すればより良い教育を提供できるか議論を重ねています。個社では実現できないことも、集まれば実現できます。EdTechの急速な普及に遅れをとらないよう、一丸となって全力で取り組んでいます。

※ICT CONNECT 21「教育の情報化」に関する皆さまにオープンな場を提供し、コネクタすることで教育を良くしていく団体。教育とICTについての情報を毎週メールマガジンで配信中！

